

「水都おおさか森林の市2010」実施結果報告

平成22年12月7日（火）

「水都おおさか森林の市2010」第3回実行委員会

I 概要

「木づかいで減らそう大気のコ₂」をキャッチフレーズに、国産材の利用促進、地球温暖化防止、森林・林業の普及と国土の保全、豊かな森林を次代に引き継ぐことをめざして10月の第1土曜日と日曜日に、本年度11回目となる「天満音楽祭」との同時開催（2日目午後）・「大阪山の日」関連イベントとして位置づけて開催しました。

今年の出展・出演団体は計66団体とこれまでよりは少な目となり、近畿中国森林管理局庁舎の耐震工事によるエリアの縮小と資材リース代の全面出展者負担が影響したものと考えられます。【資料：1 出展・出演者一覧表】

来場者確保のため、実行委員会の総力を挙げて事前のPR活動に取り組みました。「大阪府政だより」には、第3面の上段中央に大きく掲載していただき、大阪府民に対しての大きなPRとなりました。実行委員団体においては、定期的に発行される機関紙に記事を掲載したり、会員向けニュースにチラシを同封するなどそれぞれ努力をしました。また、「サンケイリビング新聞社」のリビング大阪にも取りあげられました。

なお、チラシ・ポスター・パンフレットともにデザインを全て事務局で作成するなどして、経費節減に努めました。

1日目は、かなりの雨と風が1日中続き、来場者も極端に少なく、寒い1日となりました。

当初、雨の予報が出ていた2日目は幸いにも朝から雨が上がり、多くの市民の皆様にご来場いただくことができました（来場者2日間推計15,000人）。

今年の大人気は、「親子で体験する椅子づくり」。掲載された記事の切り抜きを手に、体験場所を探す親子連れもありました。

手頃な値段の木製品やふるさとからの特産品のコーナーにも多くの方が楽しそうに立ち寄って行かれる姿が見受けられました。

II 事項別結果

(1) オープニングセレモニー

昨年に引き続きオー・エー・ピーマネジメント(株)のご好意により、屋根のある場所でのステージ設営が可能となり、荒天にも関わらず予定どおりセレモニーが開催できました。前日からの風雨に意気消沈するところでしたが、大阪市立扇町総合高等学校吹奏学部の皆さんの元気なマーチングパレードに背中を押された形でのスタートとなりました。

各実行委員会団体代表の列席のもと、最初に実行委員会会長挨拶、次に副会長による「大阪締め」で力強く開幕しました。

(2) ステージ

経費節減のためもあり、今年は平場のステージとしました。また、OAP広場前と

いう好条件により、雨天にもかかわらず16団体全ての方に発表していただくことが出来ました。

運営には工夫を凝らし、司会者及びスタッフ一同スムーズな進行に努めました。

今年始めて実施した「木製品のオークション」では、天満音楽祭スタート直前の、お客様の集まる時間帯を選び、朝から何度も場内放送を流し、期待しましたが、前半観客が少なく、集客に苦労しました。事前にオークションの出品内容の分かるチラシを配るなどのPRが必要と考えられます。

2日目午後の天満音楽祭については、天満音楽祭実行委員会のスタッフが担当しました。

(3) スタンプラリー

実行委員団体以外のブースにも一部ご協力をいただく形で、ポイントを設定しました。景品については、「木づかい」にこだわり、国産のスギとヒノキの間伐材を利用した小箱を用意しました。

スタンプラリーを活用した「アンケート」には、756名の方に答えていただきました。**【資料：2 来場者アンケート集計結果】**

(4) 緑の募金活動

会場内の2箇所に「緑の募金箱」を設置し、緑の募金活動に取り組みました。

(募金額：36,361円)

(5) 出展内容

会場全体を、大まかに販売ブースと体験ブースとに分け、森林管理局側を販売中心、OAP側を体験中心エリアとして配置しました。公園内は火気使用厳禁のため、調理する出展は出来ませんでした。各出展者の創意工夫により、パック入りなどのふるさと産品が沢山並びました。

近畿農政局のテントでは、増え続ける鹿の害に悩む農林業を守るため、駆除・廃棄される鹿肉の地域資源開発に力を入れる出展があり、「鹿カレー」「鹿肉の味噌漬」「鹿肉ジャーキー」などの紹介がされました。

「近畿中国森林管理局」のテントでは、木工教室のほか、森林技術センターの育成苗のプレゼントを行いました。

京都府立大学学生サークル「森なかま」のテントでは、手作り玩具やキーホルダーの展示即売、木製玩具を使った子ども中心の遊びの体験が行われました。

木材関連業者、森林ボランティア団体及び、森林組合のテントでは、国産材で作った椅子やテーブル、まな板や箸、木製小物の販売や製作体験がに人気を博しました。

地球緑化センターの「シュロの葉を使ったバツタづくり」は沢山の参加者で座る場所も足りない程の盛況でした。

水辺では、日曜日だけの出し物でしたが、「キッズボート」と「ドラゴンボート」の乗船体験が行われ、日頃出来ない体験に参加者の皆さん一様に楽しかったとの感想

をいただきました。「キッズボート」には約200名、「ドラゴンボート」も予定どおりの2艘分の参加がありました。

乗り場がメイン会場から離れた場所にあることから、参加者がかなりの距離を歩かないと行けないなどの課題が残りました。

(6) 運営関係

ア 本部

会場の中央部に本部を設置し、会場全体の放送、スタンプラリーポイント、パンフレット配布、連絡、救護を担当しました。

イ レンタル資材の貸出・返却

昨年同様、レンタル資材の設置・配置についてはレンタル会社に委託しました。

ウ 車両誘導と荷物の搬入・搬出

車両による荷物の搬入・搬出については、事故の未然防止のため専門の業者に委託して誘導を行いました。

初めてのケースでもあり、短い時間内での搬入・搬出については、出展者の大変さに加え、雨の影響などで、一部誘導にとまどいが生じました。

エ 巡回パトロール

警備会社への委託に加え、実行委員会スタッフによる会場内の巡回パトロールを行いました。

オ 駐輪指導

会場内に設定した駐輪場に自転車を安全に駐輪していただくため、実行委員会スタッフによる駐輪指導を行いました。1日目の雨の中の指導は難航しました。

カ 記録

ステージを始め各出展テントを廻り、撮影を行いました。

キ ステージ

天神橋筋商店街に馴染みの深い植田聖子アナウンサーの司会で、粛々とプログラムに従って進めました。

平場のステージは今回が初めてでしたが、観客席が狭くなったことやステージへの集客が課題として残りました。

(7) 事前のPR関係

森林の市のチラシを3万枚、ポスターを100枚作成し、実行委員会の総力を挙げて配布に取り組み、PR活動を展開しました。

また、近畿中国森林管理局とNPO法人自然と緑が地域の方の沢山集まる「都島区民まつり」に、「水都おおさか森林の市2010」のPR活動を兼ねて、チラシを持って参加しました。

概要にも記したとおり、大阪府政だより掲載などのほか各実行委員団体のホームペ

ージにもリンクをお願いするなど、多彩なPRの結果、現在ではインターネットでの「水都おおさか森林の市」の検索が容易に出来るようになっていきます。

Ⅲ 総括

森林管理局の耐震工事実施中であっても、規模を縮小してでも良いから実施しようとの実行委員の総意のもと開催を決定しました。

「水都おおさか森林の市2010」は、総じてその目的に沿った開催が出来たと考えられます。これはひとえに出展者・出演者の皆様の創意工夫と努力によるものと考えます。【資料：3 出展・出演者アンケート集計結果】

出展用資材のレンタル料を全て有料にし、ステージの出演を無料出演の方のみに限定をしましたが、それでも「森林の市」に出展・出演したいと申し込んでいただく方が沢山あったことが、大きな成果でした。

初日は雨となり、商品が雨に濡れないように出展団体の皆様にはご苦労されたところですが、2日目は天気も回復し、2日間の来場者数は推計1万5千人となりました。

昨今の気候の急激な変動やゲリラ豪雨、また、この時期が台風シーズンでもあることから、想定出来る範囲の荒天に対する対策を更に強化することが必要です。

そのため今回は、イベント中止保険やスタッフ傷害保険、責任賠償保険にも加入し、万全の準備をしました。

開催日近くなると、市民の方から事務局に問い合わせの電話が多く、「森林の市」を楽しみにしていただいているリピーターの多さを感じ取ることができました。

イベントが大きくなるに従って、車両による荷物の搬入・搬出の作業が難しくなっています。今年は、専門の警備会社に委託し、車両の誘導をお願いしましたが、短時間に多くの車両が入・退するため、作業が困難を極め改善が必要です。

本年は、実行委員の努力により、スタッフを確保し、事前にスタッフ打ち合わせ会議も開催でき、実行委員会が一丸となって実施する基盤が強まりました。

日本の豊かな森林を守り、林業の振興と、地球温暖化防止に資する木材資源の循環利用の大切さを都市の皆さんに広く理解していただくため、テレビや新聞などのマスメディアを通じてアピールすることが大切と考えます。